

SHOWA UNIVERSITY NEWS

2 FEB. MAR. 3
2024

昭和大学新聞
通巻 第618号 (隔月発行)

定年退職者(教授)特別寄稿

学生からの寄稿「富士吉田の思い出」



2 Special Feature

定年退職者(教授)特別寄稿

宮崎章教授 相良博典教授 坂下暁子教授
 落合正彦教授 石田文生教授 永田茂樹教授
 岩波明教授 真鍋厚史教授 伊藤純治教授
 荒田悟教授 田中周一教授

6 Student Life

学生寄稿

「富士吉田での思い出」

8 Press Release

学生ニーズ提案会と臨床ニーズマッチング会で
 医工連携の取組みを強化

地域医療への貢献と災害支援活動で2名受賞
 昭和と上條医療賞授賞式

炎症時の焼けるような痛みに関するメカニズムを発表
 鎮痛薬開発の新たなコンセプトを提示

11 News & Topics

能登半島地震被災地支援
 リカレントカレッジ特別企画(冬)
 薬学部白衣授与式
 特別協定校で出張講義・体験授業 各賞受賞者ほか

22 Database

令和6年度入学試験
 一般選抜入試(I期)・
 大学入学共通テスト利用入試結果
 看護専門学校入学試験結果
 冬季スポーツ大会競技結果

24 Meeting Report (学内会議報告)

26 Information

定年退職者 (教授) 特別寄稿

散りぬべき とき知りてこそ

医学部
 生化学講座
 宮崎章



「散りぬべきとき知りてこそ 世の中の 花も花なれ 人も人なれ」
 この歌は日本三大美人の誉れ高い細川ガラシャ夫人(本名たま)の辞世の句です。ガラシャ夫人は明智光秀の娘に生まれ、戦国武将の細川忠興に嫁ぎます。江戸時代に入り、ガラシャ夫人の子、忠利が私の故郷である肥後熊本に入城し藩主となります。2002年11月、熊本大学医学部生化学第二講座から現職に着任し、21年と5ヶ月が経ちました。私もいよいよ散るときが来たかと感慨深く感じております。2012年から3期6年、昭和大学学生部長を拝命し、このとき導入された修学支援制度は今も継続されています。そのご縁でしょうか、2024年4月から「修学支援」担当特任教授として、富士吉田校舎勤務を拝命しました。ご期待に沿うべく富士吉田でもう一花咲かせてみたいと思います。在任中ご指導、ご鞭撻を頂いた皆様に心より御礼申し上げます。

多くの支えがあって 今がある

医学部
 内科学講座血液内科学部門
 (横浜市北部病院)
 坂下暁子



1985年に昭和大学を卒業し、第二内科学教室に入局しました。諸先輩方からの熱いご指導をいただき、私の医師としての姿勢や内科医としての技術はここで叩き込まれたと感じています。研究においては鶴岡延熹教授や後に教授になられた中牧剛先生のご指導のもと白血病の分化誘導療法を学び、1990年からはUCLAに留学させていただきました。いっとき昭和大学を離れ埼玉県立がんセンターや海外のNGO、信州の山の医院などで働いていましたが、2002年から昭和大学横浜市北部病院に勤務することになり、血液内科医として多くの経験をさせていただきました。また地域がん診療連携拠点病院やがんゲノム医療連携病院の指定を獲得するなど、歴代病院長の強いバックアップのもと多くのスタッフと協力して、活気ある仕事をさせていただきました。定年退職に際し私を育ててくださった先輩、同僚、後輩の皆様、そして多くの素晴らしいスタッフに改めて感謝申し上げます。

自らに問い続けた11年、 皆様への感謝を込めて

医学部
 内科学講座呼吸器アレルギー内科学部門
 (昭和大学病院長)
 相良博典



2013年4月に昭和大学に赴任し、11年を数えます。瞬く間に月日が過ぎて行きましたが、毎日、必死で走り続け、翌朝、目覚めの時に、ああ、なんとか今日も生きている、と思う。その繰り返しの日々だったというのが、率直な実感です。その間、入試常任委員、M4試験委員長、研修管理委員長等々、学生教育、次世代を担う研修医の教育と指導に携わりつつ、臨床の各教室の先生方と仕事する機会を与えて頂きました。広く、新たな学びを得ることが出来たのが、大きな財産です。全て、事にあたるにおいては、「動機善なりや、私心なかりしか」、との問いを自らに課してきました。稲盛和夫の経営哲学から学んだ言葉です。この行動は、良き心から発したのか。組織や、その将来、医学の発展を考え、志してのものか。自分ではない誰かの為のものか、を考えて行動してきました。その成否については、皆様と、後進のご判断に委ねたいと存じます。4月以降も、昭和大学病院長として、引き続き、お世話になります。これまで支えて頂きました全ての皆様に、深く感謝申し上げますとともに、昭和大学の益々の発展を祈念いたしております。

昭和大学 横浜市北部病院とともに

医学部
 内科学講座循環器内科学部門
 (横浜市北部病院)
 落合正彦



私は1984年に東京大学医学部を卒業後、2001年3月、全くとご縁がなかった昭和大学にお声がけいただき、横浜市北部病院の開院メンバーの1人となりました。以来、23年間の時が過ぎましたが、小口理事長はじめ諸先生方・職員の皆様のお力添えで循環器内科は当初の想像を超えた発展を遂げました。開院当時、医局員は私を含め僅か4名でしたが、現在、在籍した医局員は通算40名を超え、各種のカテーテル治療は増加し、2023年は合計1,117件と過去最高となりました。血管内イメージングをメインに多数の英文学術論文を発表し、私個人も、米国、英国、イタリアなど欧米を含む世界各国で冠動脈インターベンションを供覧しました。特に2005年3月、米国心臓病学会総会で、日本人として初めてライブオペレータを務めたことは忘れられません。4月からは特任教授として微力ながら北部病院での循環器診療に貢献できればと存じます。昭和大学への深い感謝とともに、創立100周年に向けての益々のご発展をお祈り申し上げます。

大腸癌の診断と治療の進歩とともに

医学部
外科学講座消化器一般外科部門
(横浜市北部病院)

石田 文生



私は2002年、昭和大学横浜市北部病院の開院翌年に工藤進英センター長の下、消化器センターに入職、下部消化管腹腔鏡手術を担当させていただきました。当時は下部消化管腹腔鏡手術が日本に導入されて未だ10年に満たず、適応、術式も徐々に変化し、確立されている時期でありました。「世界最先端の消化器診断と治療を」という工藤センター長の号令のもと田中淳一教授、井上晴洋教授の指導をいただき皆で取り組んできました。内科、外科の垣根のない消化器センターでの診療、研究は非常に刺激的でありました。研究のみならず、日本内視鏡外科学会技術認定を31名が取得できたこともそれぞれの努力とチーム力の結果と感謝しております。ご指導いただきました諸先生、消化器センター医師、職員、医師会先生方みなさまのおかげで無事退官させていただきますことに深く感謝し、心より御礼申し上げます。昭和大学の益々のご発展を祈念致します。

皮膚科医としてのゼネラリストを目指して

医学部
皮膚科学講座
(江東豊洲病院)

永田 茂樹



2024年3月をもちまして皮膚科学講座の教授を定年退職いたします。大学院で血管炎の病理学的研究に明け暮れるうちに皮膚臨床症状に興味を持ち、皮膚科学教室に温かく迎えていただき、33年が過ぎました。先輩方に「基礎研究の前にまずは皮膚疾患の臨床症状をしっかり勉強せよ」と命ぜられ、ご指導いただき、10年を過ぎたころには皮膚科診断学の魅力に取りつかれていました。臨床経験を積み重ねるうちに臨床診断するには皮膚疾患の全体を体系的に結びつけることができる知識が必要と考え、希少疾患も含め、種々の症例を経験するためのサードキャリアを模索していたところ、開設準備室から江東豊洲病院に入職する機会を与えていただき、10年が経過しました。皮膚科診断学は奥が深く、まだまだ志半ばではありますが、貴重な経験を与えていただきました昭和大学の皆様はこの場をお借りして、感謝いたしますとともに、創立100周年のご成功を祈念いたします。

響きと怒り

医学部
精神医学講座
(烏山病院)

岩波 明



私は1990年代の後半、上島先生が講座主任であった時代に、当時の東病院精神科に勤務していました。その頃の東病院は「東棟」と呼ばれていて、2階に各科の医局、3階に精神科の病棟がありました。この時期は診療の他、事象関連電位、うつ病の治療アルゴリズムなどの研究に従事していました。2008年から再び東病院にお世話になり、その後、精神医学講座の主任、烏山病院の病院長を拝命して現在に至っています。烏山病院では診療面で発達障害、特にADHDの診断と治療に力を入れてきました。また従来の精神科病院の体質を変えるべく努力してきましたが、これはまだ道半ばと思われる。その他、JAXA(宇宙航空研究開発機構)の専門委員として宇宙飛行士候補の選定にあたったこと、成人期発達障害臨床医学会という新しい学会を立ちあげたこと、NHKの海外ドラマ『アストリッドとラファエル』の医療監修を担当したことなどが印象に残っています。精神医学は国外ですでに「メジャー」の扱いを受けています。わが国の診療報酬の薄さはネックになりますが、精神医学へ理解と尊重が増すことは、数多い患者さんの幸福につながるものと考えます。昭和大学と精神医学講座のますますの発展を願っています。ちなみに『響きと怒り』というタイトルは、米国の作家フォークナーの作品から借りたものです。

昭和大学歯学部 の誕生と共に 47年間を生きる

歯学部
歯科保存学講座美容歯科学部門

真鍋 厚史



2024年正月に石川県を中心とした大規模な地震災害が発生し多くの人が犠牲になられたことに対し心より哀悼の意を表します。私は昭和52年に歯学部1期生として入学しそれから47年の間お世話になり、無事退職を迎えることになりました。学部卒業後、大学院生として故坂本浩二教授の医学部第一薬理学教室に進学いたしました。そこでは主に歯科材料の生体膜作用(赤血球や肝細胞膜)に関する影響を口腔粘膜の副作用と結びつける研究を行いました。大学院修了後は歯科保存修復学講座に故和久本貞雄名誉教授を師事し入局いたしました。診療、教育、研究と精力的に行い特に研究では歯質接着性や歯科材料のアレルギーの研究などを薬学部毒物学教室や薬品製造化学教室からご助言を賜りました。最終的には新しい歯質接着剤まで開発し特許を取得することができました。これも一重に医系総合大学にお世話になったおかげと感謝しております。退職後も臨床に携わり少しでも地域医療の貢献するようにと考えております。本当に長い間有難うございました。

解剖は努力と忍耐

保健医療学部
リハビリテーション学科
(理学療法学)

伊藤 純治



本年3月をもちまして、昭和大学を定年退職いたします。私は1983年4月、医学部第二解剖学講座(現解剖学講座肉眼解剖学部門)助手として入職し、肉眼解剖学の道に入りました。その後2007年4月に保健医療学部理学療法学科に移籍し、41年間にわたり昭和大学にお世話になりました。ここまで続けられたのは初めてご指導を受けた猪口清一郎教授をはじめ、多くの先生方のおかげで、心より感謝いたしております。教育面では解剖学実習、講義に携わらせていただきましたが、まだまだ完全に理解できたとは言いがたい状態です。まさに人体は不思議の世界であり、それを理解する「解剖は努力と忍耐」だと感じております。研究面では骨格筋の機能解析に関する研究として、筋線維構成を中心に、形態計測学的に進めてまいりました。これまでお世話になりました皆様方に感謝いたします。今後も微力ではありますが解剖学教育に関わらせていただきます。創立100周年に向けて昭和大学の益々の発展を心よりお祈り申し上げます。

恵まれた教育・研究環境に感謝

富士吉田教育部

荒田 悟



この度、富士吉田教育部教授を定年退職いたします。1977年に薬学部に入學して以来、薬学部微生物薬品化学教室、南フロリダ大学への留学をはさみ、共同研究施設、2018年から富士吉田教育部と47年間母校昭和大学にお世話になりました。薬学部時代は河西信彦教授の指導のもと「細菌内毒素」をテーマに研究の楽しさを学び、後任の野瀬清教授にがん研究を通して多くの研究手法を学ばせていただきました。その後、東京大学医科学研究所で発生工学を学ぶ機会をいただき、共同研究施設で管理・研究を行ううえで大きな糧となりました。この間、学部間、基礎・臨床の風通しとともに人の温かみを実感してきました。富士吉田教育部では、全学部の新入生が寮生活や初年次体験実習を通して各専門と学部連携を意識して成長する姿を目にし、本学の原点を再認識しました。このような恵まれた環境で仕事をさせていただいた昭和大学への深い感謝とともに今後のさらなる発展を心からお祈り申し上げます。

日本語と／で 苦闘する若者とともに

富士吉田教育部

田中 周一



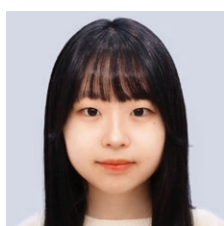
専任講師として富士吉田教育部に着任してから14年、兼任講師として昭和大学の教壇にはじめて立った日から数えるとすでに36年。当時まだ20代であった私がこうして定年退職を迎えることができましたのは、ひとえに上司・同僚そして先輩に恵まれたからこそと感謝しております。1年次を中心に、保健医療学部、附属看護専門学校などで日本語およびコミュニケーション力の育成に全力を注いできました。母語というものは重要なコミュニケーションのツールであるとともに、人間の思考を司る根幹でもあります。生成AIが拡大する状況にあって、母語を運用する能力はますます重要度を増すと考えられます。その一方、この日本語と／で苦闘する学生たちは減る気配がありません。こうした若者がいるかぎり、私の仕事に終わりはありません。これまでのご恩に深く感謝しつつ、新たなスタートに向け心機一転をはかる所存です。



富士吉田での思い出

12月22日、富士吉田スクエアガーデンにて退寮式を執り行い、603人が9ヶ月におよぶ寮生活に別れを告げた。退寮式では、学生の代表から寮生活を支えてくれた職員・寮監、そしてともに過ごした学生たちに感謝が伝えられた。そして、赤松寮・白樺寮・すみれ寮・百合寮の寮監には、それぞれの寮長・副寮長から感謝の言葉と記念品が贈られた。学生たちは富士山麓の清涼な環境の中で過ごした寮生活の思い出を胸に、4月からは旗の台キャンパス・横浜キャンパスで学部毎に専門分野の学修を開始する。たくさんの思い出ができた富士吉田キャンパスでの生活について、代表学生に振り返ってもらった。

大きな期待を胸に取り組んだウィンターパーティー



医学部
西出莉彩

ウィンターパーティーにおいて、私はイルミネーションに関わる部門で副部門長として活動しました。大きな期待を胸に副部門長に立候補したものの、準備の際は部門員それぞれの理想に基づく衝突が起こることもあり、何度も壁にぶつかりました。しかし、その衝突があったからこそ、ウィンターパーティーをより良いイベントへ昇華させることができたと思います。今となってはトラブルも良い思い出となり、困難を乗り越えて行われた点灯式本番の達成感は格別でした。あの時の胸の高鳴り、高揚感は今から先もずっと忘れなと思います。イベントを盛り上げようと仲間と協力し、かけがえのない瞬間を味わえたこと、本当に幸せです。そして、

このように思えるのは支えてくださった方々のおかげです。何度伝えても足りないくらいですが、ご協力くださった皆様、本当にありがとうございます。



ボランティアでさっそく仲間と協力プレイ!



寮生活が始まって約一ヶ月が経った頃、私はボランティア活動に参加しました。主な活動内容は、山道に落ちているゴミを拾うことで、本学の学生のほか、地域の高校生と行いました。参加した時期が入寮後すぐだったこともあり、知り合いも少ない状況でした。しかし、活動を行って行く中で仲間と協力する場面があり、新たに友達ができ、仲を深めることができました。このボランティア活動では、他者のために環境の美化活動ができただけでなく、自分のためにもなった活動であると強く感じました。交友関係を広め、人との交流ができたことや山の環境問題の現状を知ることができました。このような経験をすることで充実感が得られ、貴重な機会をいただき、より良い寮生活を送ることができたと思います。本当にありがとうございました。



歯学部
井上美咲

仲間と築いた最高の思い出



薬学部
青木久実

11月に開催されたウィンターパーティーに、私は実行委員として携わらせていただきました。

富士吉田での生活も残りわずかということで、皆さんにとって最後の思い出が良いものとなるよう、仲間と力を合わせ準備していきました。準備期間が短く、不安が多くありましたが、当日たくさんの学生が心から楽しんでいる様子を見て、大きな達成感を得ることができました。また、それと同時にこの1年間、富士吉田で多くの仲間に出会い、共に困難を乗り越え、楽しみを共有することができたことに喜びを感じました。皆さんにとっても良い思い出になることができたのではないかと思います。

最後にイベントを開催するにあたってご協力いただいた先生方、また手を貸してくださった皆さんに感謝いたします。

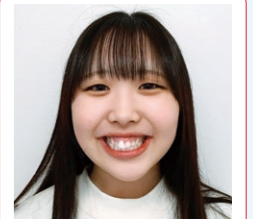


学部連携で得た財産



昭和大学の特色でもある学部連携授業は、私にとってとても貴重な経験になりました。10月に行われた初年次体験実習の病院実習では、実際に病院内を細かく見学したことで、医療者が患者さんとどんな関わり方をしているのかを学ぶことができました。またここでは、グループのメンバーが自分とは違った視点で質問をしていて非常に刺激を受けました。さらに実習のメンバーとはすぐに仲良くなり、実習帰りのタクシーではとても話が盛り上がったことを覚えています。

このように授業を通して学部を越えてと深い関わりを持つことができたこの経験は私にとって一生の財産です。改めて約9ヶ月関わってくださった全ての方には感謝しかありません。ありがとうございました。



保健医療学部
看護学科
玉置小麦

ボランティア活動を通しての温かい交流



保健医療学部
リハビリテーション学科
理学療法専攻
金子涼梧

朝早くからのボランティア活動は、その内容がゴミ拾いで、地域に少しでも貢献できればいいと思っていましたが、とても眠くて更に外が暑くて大変でした。ボランティア活動には地元の人がたくさん参加していて、その中には高校生もいました。ゴミがたくさん落ちていて、中には大きいものもあり少しショックでした。地元の人たちは私たちよりも道の隅々までゴミがあるかを見ていましたが、毎年ゴミ拾いをやっているという話を聞いて、この町が本当に好きなのだなと感じました。たくさんの人と会話をしましたが、とてもやさしく話しやすい人が多く、参加していた高校生とも話して美味しいお店やおすすめの観光地も教えてもらい、とても楽しい時間があっという間に過ぎました。



充実した寮生活



保健医療学部
リハビリテーション学科
作業療法専攻
府川なの葉

約9ヶ月間の寮生活は長くも短い時間でした。初めは出会った初日から他人と寮生活することに不安しかありませんでしたが、一緒に食事やお風呂にいき、朝まで様々なことを話したり、ピザ・たこ焼きパーティーをしたり、友人と過ごす時間が増えれば増えるほどお互いを理解しあうことができました。寮生活を終えた今、強く感じることは、とても貴重な経験であったということです。大学入学に至るまで環境や重ねてきた経験は大きく異なり、もちろん価値観や人間性も各々で確立されています。私自身いろいろな考え方の人がいるのだなととても勉強になりましたし、その人を理解し、付き合い方を考えながら程よい距離感を見つけることは将来に繋がる経験となりました。富士吉田で過ごした時間はとても大切な思い出です。





Press Release

昭和大では最新の研究結果を外部(マスメディア)に発信しています。
ここでは、プレスリリースとして発信した記事をご紹介します。

学生ニーズ提案会と臨床ニーズマッチング会で 医工連携の取組みを強化



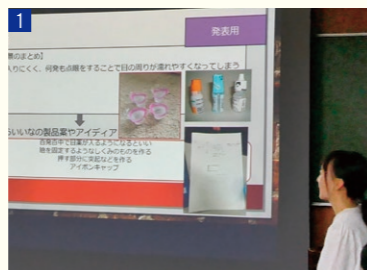
昭和大学(東京都品川区、学長：久光正)は、2023年10月5日に東京都医工連携HUB機構(以下、HUB機構)と共催で、学生ニーズ提案会を開催した。また、同年11月21日に開催された、医療従事者のニーズと企業の技術をマッチングし、新たな製品開発につなげる場である昭和大臨床ニーズマッチング会にて、学生から約90社に対し、ニーズの提案を行った。

「医工連携」とは、医療に関わる新技術の研究開発や、新事業の創出を図ることを目的に、大学などの教育機関・研究機関、民間企業の医療関係者と工学関係者が連携すること。医療分野では次々と新しい技術、製品が開発され、「医工連携」が注目されている。

昭和大では、2023年10月5日に医工連携への取組みとして、HUB機構と共催で学生ニーズ提案会を開催した。本会は、「学生生活を送る上で感じる様々な不便に思うことを改善するアイデア」、「臨床現場の実習を通じて感じた患者さんや医療スタッフ、病院のための工夫に関するアイデア」などをグループ討議で具現化し、製品化を目指すことを目的とした会で、昨年に続き2回目の開催。

医学部1名、薬学部9名の計10名の学生が参加し、本学教育職員4名、HUB機構コーディネーター2名を交え、学部や学年を越えた活発な議論の結果、7つのニーズについて提案がなされた。そのうち3つのニーズは11月21日に、HUB機構と共催の昭和大臨床ニーズマッチング会にて、学生から約90の企業に対しプレゼンテーションを行った。その他のニーズについても、HUB機構のWEBサイトに掲載され、今後はマッチングした企業と連携して、製品化を目指していく。

- 昭和大臨床ニーズマッチング会で提案されたニーズと提案者
- 周囲の目を気にしない服用アプリ(薬学部5年 中村 妃奈子さん)
 - 熱中症予防アイテム(薬学部4年 川口 玲音さん)
 - 百発百中目薬キャップ(薬学部3年 佐藤 あおいさん)



リリース時タイトル/昭和大が医工連携への取組みとして学生ニーズ提案会を開催

東京都医工連携HUB機構 WEBサイト/ https://ikou-hub.tokyo/needs/needs_list

本件に関する問い合わせ先/昭和大 統括研究推進センター事務局 研究支援課 TEL: 03-3784-8019 E-mail: sangaku@ofc.showa-u.ac.jp

地域医療への貢献と災害支援活動で2名受賞 昭和上條医療賞授賞式



益財団法人昭和大医学・医療振興財団(東京都品川区・理事長 山元俊憲)は、このほど2023年度の昭和上條医療賞受賞者を発表し、授賞式が昭和大上條記念館で執り行われた。

昭和大医学・医療振興財団は、国民の健康増進と医学・医療の発展に貢献するため設立された公益財団法人である。その事業の一つとして2014年度に創設した顕彰事業「昭和上條医療賞」は、地域保健医療の実践及び教育の分野において創造的かつ先駆的諸活動を行い、大きな成果を挙げた個人またはグループを顕彰するものである。昨今は、助成を条件として特定の分野に限って顕彰する形式の事業が一般的となっているところ、本事業は、医師、歯科医師、薬剤師、看護師および理学・作業療法士など広く医療人を対象とし、チーム医療等の活動を中心に顕彰しており、同財団の理念を体現した特色といえる。今年度の受賞者は次のとおり。

■第10回「昭和上條医療賞」(2023年度顕彰事業) 受賞者

- どんな時も安心して生活できる、より良い地域を作る
阿部 行宏氏(山の下クリニック 院長:新潟県新潟市)
- 移動薬局車両による災害支援活動
村木 理英氏(アイ薬局 代表取締役:岡山県総社市)



1 (左から)山元俊憲理事長、阿部行宏氏(受賞者)、佐藤雄一郎氏(推薦者代理) 2 (左から)山元俊憲理事長、村木理英氏(受賞者)、森山圭氏(推薦者代理)



リリース時タイトル/昭和大医学・医療振興財団が第10回昭和上條医療賞の授賞式を開催

本件に関する問い合わせ先/公益財団法人 昭和大医学・医療振興財団 TEL: 03-3783-6731 E-mail: igakusinko@ofc.showa-u.ac.jp



全国に広がる、日本調剤のネットワーク。

日本調剤株式会社(本社:東京都千代田区丸の内、東証プライム市場上場)は、全国47都道府県で700以上の調剤薬局を展開している企業です。

— 生協は学園生活のパートナーです —



昭和大学生生活協同組合

旗の台: 3788-2322(内線)8268 アミ: 3785-9729(内線)8369
吉田: 0555-23-8505 洗足: 3787-4432 横浜: 045-985-9624

炎症時の焼けるような痛みに関するメカニズムを発表 鎮痛薬開発の新たなコンセプトを提示



昭和大学(東京都品川区/学長:久光正)の高山靖規講師(医学部生理学講座生体制御学部門)と自然科学研究機構生理学研究所の富永真琴教授(細胞生理研究部門)らは、炎症時においてリン酸化されるカプサイシン受容体TRPV1が、通常では痛みを引き起こさないような感覚刺激(低濃度のカプサイシンや37°Cの熱刺激)によって僅かに活性化すると、その下流においてアノクタミン1を強力に活性化させることを証明した。これにより、リン酸化TRPV1とアノクタミン1の相互作用を阻害することが新たな鎮痛薬開発に繋がることが期待される。本研究成果は2024年1月12日に、日本疼痛学会誌『Pain Research』に掲載された。

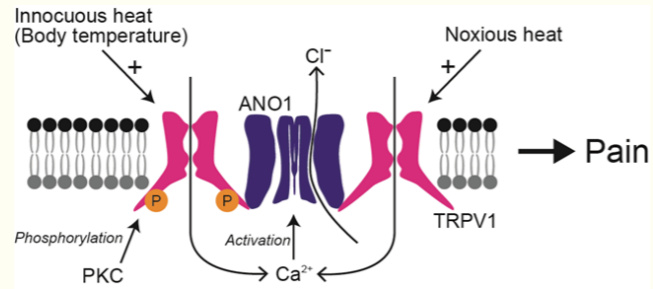
唐辛子に含まれる主な辛辣成分であるカプサイシンは皮膚の感覚神経に発現するTRPV1(カルシウム透過性を有するイオンチャネル)を活性化させる。そのため、辛いものを食べた時に感じるような焼けるような痛み(灼熱痛)の分子メカニズムはTRPV1が主に注目されてきた。灼熱痛は炎症などの病的な状態でも感じるため、これまで多くの製薬会社などが鎮痛薬としてTRPV1阻害薬の開発を進めていたが、副作用の問題があり臨床使用されているものはない。そのため、新しいコンセプトに基づく新規鎮痛薬の開発が重要となる。

細胞内のカルシウムによって活性化するクロライドチャンネルであるアノクタミン1(ANO1)もTRPV1を持つ感覚神経に発現しており、その活性化は灼熱痛を強めることが、筆者らのこれまでの研究で明らかとなっている。活性化したTRPV1を介して細胞内に流入するカルシウムによってアノクタミン1が活性化されると神経興奮が高まるため、辛いものを食べた時に感じる灼熱痛のような急性疼痛^(※1)が増悪するが、炎症性疼痛^(※2)などにおけるこの二分子間の相互作用は不明だった。

炎症においてTRPV1は細胞内に存在するプロテインキナーゼC(PKC)というタンパク質によってリン酸化を受ける。リン酸化TRPV1は通常よりも活性化しやすくなっており、これが痛覚過敏^(※3)やアロディニア^(※4)の原因と考えられている。そこで今回、PMAという化合物を使ってTRPV1を人工的にリン酸化し、この炎症類似条件においてTRPV1とアノクタミン1の相互作用がどのように変化するのか電気生理学的・生化学的に解析した。

その結果、これまで言われていたように、通常ではTRPV1をほとんど活性化しない濃度のカプサイシンや37°Cという深部体温程度の熱刺激によってTRPV1は弱く活性化された。ところが、この弱いTRPV1活性化を介してもなお、アノクタミン1は強く活性化することが判明した。この際、リン酸化TRPV1とアノクタミン1同士の直接的なタンパク質間結合は、リン酸化させていないTRPV1の時と比べて変化はなかった。これらの結果は、TRPV1とアノクタミン1の相互作用においては、リン酸化TRPV1の活性化だけに依存してアノクタミン1が活性化することを示している。

本研究から、炎症性疼痛を抑えるためには、TRPV1もしくはアノクタミン1を阻害することが有効である可能性が示された。しか



低濃度のカプサイシンまたは無害な熱刺激によって誘導されるリン酸化TRPV1とANO1/TMEM16A相互作用イメージ図

し、TRPV1阻害剤の開発は滞っており、アノクタミン1は痛み以外にも涙液分泌や皮膚再生の促進に関与することが知られている。そのため、TRPV1とアノクタミン1の相互作用を選択的に阻害するというコンセプトがより良い鎮痛薬開発に繋がると本研究によって提示された。

本研究成果は、完全英語化され2024年より国際誌として生まれ変わった、日本疼痛学会誌『Pain Research』において、その最初の論文として2024年1月12日に掲載された。

リリース時タイトル / 【昭和大学・生理学研究所】炎症時に感じる焼けるような痛みにはリン酸化TRPV1とアノクタミン1の相互作用が重要であることを論文発表 — 新たな鎮痛薬開発に繋がる期待

用語解説

- ※1 急性疼痛: 怪我をした時などに感じる痛みのこと。傷が癒えると自然と感じなくなる、生物に危機的環境を知らせる重要な痛みである。
- ※2 炎症性疼痛: 炎症を起こしている部位で感じる痛み。急性疼痛と違い、痛覚過敏やアロディニアといった生理的ではない痛みが生じる。
- ※3 痛覚過敏: 痛みを引き起こす刺激(カプサイシンや42°Cを超えるような熱刺激など)であっても程度が小さければ強い痛みは感じない。しかし、そのような弱い刺激であっても強く痛みを感じるような状態のことを痛覚過敏という。
- ※4 アロディニア: 異痛症とも呼ばれる痛み。通常では痛みとはならない刺激(体温など)によって強い痛みが生じるような状態のこと。帯状疱疹などで服が皮膚に擦れただけで生じる、刺されるような痛みなどもアロディニアに属する痛み。

掲載誌/Pain Research

論文名 / Phosphorylated TRPV1 and ANO1 / TMEM16A interaction induced by low concentration of capsaicin or innocuous heat stimulation (和訳: 低濃度カプサイシンもしくは非侵害性熱刺激により誘導されるリン酸化TRPV1とANO1/TMEM16Aの相互作用)

著者 / Yasunori Takayama*, Makoto Tominaga (*Corresponding author)

掲載日 / 2024年1月12日

DOI / <https://doi.org/10.11154/pain.39.1>

本件に関する問い合わせ先 / 昭和大学 医学部生理学講座生体制御学部門 講師 高山 靖規(たかやま やすのり) TEL: 03-3784-8110 E-mail: ytakayama@med.showa-u.ac.jp / 自然科学研究機構 生理学研究所 細胞生理研究部門 教授 富永 真琴(とみなが まこと) TEL: 0564-59-5286 E-mail: tominaga@nips.ac.jp

News & Topics

2024.1.11~2.17

昭和大学病院 藤が丘病院 横浜市北部病院 江東豊洲病院

能登半島地震被災地支援のため 災害派遣医療チーム・ 日本医師会災害医療チームら派遣

昭和大学病院、藤が丘病院、横浜市北部病院、江東豊洲病院は、令和6年能登半島地震の被災地支援のため災害派遣医療チーム(DMAT)を能登中部医療圏へ派遣し、被災地で活動を行った。

※DMAT=災害派遣医療チーム(Disaster Medical Assistance Team)

病院名	構成員	出動・活動期間
昭和大学病院	・医師:土肥 謙二、鈴木 恵輔 ・看護師:角田 明子、米山 正志 ・業務調整員:玉造 竜郎(薬剤師)	出動:1月16日 活動期間:1月18日~20日
藤が丘病院	・医師:中島 靖浩 ・看護師:佐藤 隼、堅田 奈美 ・業務調整員:三橋 理人(臨床工学技士)	出動:1月11日 活動期間:1月12日~17日
横浜市 北部病院	・医師:中野 賢英 ・看護師:狩野 祐子、永田 絵里香 ・業務調整員:縄田 修一(薬剤師)、 高田 昂輔(薬剤師)	出動:1月16日 活動期間:1月17日~22日
江東豊洲病院	・医師:森田 将 ・看護師:平山 裕貴、倉富 英明 ・業務調整員:高田 義孝(事務員)	出動:1月22日 活動期間:1月24日~26日

東京都医師会からの要請を受け、「令和6年能登半島地震」の被災地支援のため、昭和大学病院からJMAT隊1チーム(医師2名、看護師2名、業務調整員1名)が出動した。

※JMAT=日本医師会災害医療チーム(Japan Medical Association Team)

病院名	構成員	出動・活動期間
昭和大学病院	・医師:菊地 一樹 ・看護師:田畑 慶喜、小山 愛樹 ・業務調整員:片桐 江美子 (診療放射線技師)	出動:2月13日 活動期間:2月14日~17日

東京都看護協会からの要請を受け、災害支援ナースとして派遣した。

病院名	構成員	出動・活動期間
江東豊洲病院	・看護師:村山 美和	出動:2月5日 活動期間:2月5日~8日



1 DMAT出動の様子(藤が丘病院)
2 DMAT出動の様子(昭和大学病院)
3 DMAT出動の様子(江東豊洲病院)
4 JMAT出動の様子(昭和大学病院)
5 6 DMAT 現地活動拠点にて(横浜市北部病院)

能登半島地震災害義援金募金について (ご協力をお願い)

学校法人昭和大学では、このたびの能登半島地震によって被災された方々に対し、義援金をお送りすることといたしました。つきましては、昭和大学各施設に災害義援金募金箱を設置いたしますので、本学職員・学生およびご来訪のみなさまにおかれましては、募金活動にご協力くださいますようお願いいたします。

なお、義援金は、日本赤十字社をとって被災地にお届けいたします。

〈お問い合わせ先〉学校法人昭和大学 総務部総務課 メール:soumu@ofc.showa-u.ac.jp 電話:03-3784-8011

看護管理者としてさらなる活躍を目指し 34名がサードレベル全課程を修了

1月20日、2023年度認定看護管理者教育課程サードレベルの修了式を開催した。

今年度は34名が全課程を修了した。修了式では、出席者32名に増田千鶴子看護キャリア開発・研究センター長から修了証が授与された。

受講期間中、仲間との交流はオンラインが中心だったが、この日は共に研鑽を積んだ仲間と対面し、大いに親睦を深めていた。

今後、研修生は、安心・安全な看護を未来につなげていくため、各々の施設で看護管理者として活躍することを胸に誓い、新たな一歩を踏み出した。



1 挨拶：増田千鶴子看護キャリア開発・研究センター長 2 記念写真
3 修了証授与 4 修了式の様子 5 研修生代表の挨拶：若狭恵美さん

令和5年度 昭和大学 認定看護管理者教育課程 サードレベル 修了式

富士吉田の学生32名がスケート実習を受講 「健康とスポーツの科学」集中講義

12月22日～24日の3日間、富士急コニファースケートリンク（山梨県富士吉田市）にて、富士吉田教育部のカリキュラム「健康とスポーツの科学」の集中講義を開講し、学生32名が受講した。

本学の職員で女子アイスホッケー日本代表監督の飯塚祐司さんや昭和大学女子アイスホッケークラブ「BLUE WINDS」の選手を講師とし、スケート靴の履き方から始まり、基本技能（自然滑走、ひょうたん滑走、イの字ストップ、フォアストローク）の習得を目指した。習熟度別にグループ分けを行い、動画でフォームを撮影しながら進めた。実技実習後の講義では、撮影した動画を使用しながらグループごとにコーチからフィードバックを受け、さらなる技能習得に向けてアドバイスもらった。

また、「オリンピック講演」と題し、飯塚監督が女子アイスホッケーの歴史や2022北京オリンピックでの経験談について講演した。学生たちは熱心に耳を傾けていた。



1 2 3 講義の様子 4 5 講義に参加した学生たち



昭和大学広報担当は日々のお知らせや大学キャンパス、各附属病院のイベント情報などをX（旧Twitter）、Instagramで発信中です。凛々しく研鑽に励む学生・職員の皆さんの姿や四季折々のキャンパス風景など、明るく元気にお伝えしていきますので、ぜひ昭和大学の「いいね!」な出来事と一緒に楽しみください。



X (旧Twitter)



Instagram

SHOWAUNIV.PRESS

リカレントカレッジ特別企画(冬) 人気番組の大喜利メンバー登場

1月6日、昭和大学リカレントカレッジ特別企画(冬)「日本の伝統芸能を知る『落語』」を昭和大学上條記念館において開催した。会場には約400名の方の来場があり、大盛況の会となった。

はじめに、昭和大学リカレントカレッジ小川良雄プリンシパルより開催の経緯など含めて開会の挨拶があった。

今回は品川区出身・在住、人気番組の大喜利メンバーでおなじみの落語家・桂宮治さんをお招きし、講演および落語を一席披露していただいた。

第一部では、「落語とコミュニケーション術～明るいとこに花は咲く～」と題し、ご自身の生い立ちや落語人生、そしてこれまでの経験で培われた様々なコミュニケーション術について、講話をいただいた。

第二部では、落語「親子酒」が披露され、軽快で小気味の良い語り口に、会場全体が笑いに包まれた。



1 開会の挨拶：小川良雄プリンシパル
2 第二部：落語「親子酒」の様子

最後に小口勝司理事長から挨拶があり、閉会となった。

引き続き、昭和大学リカレントカレッジでは社会人の「知の探究」の一助となる文化の発信拠点として、様々な講座の開講やイベントの開催に取り組んでいく。

157名が心構えを新たに臨床実習に臨む 薬学部白衣授与式

1月10日、令和6年薬学部白衣授与式を上條記念館で執り行い、4年生157名一人ひとりに白衣が授与された。

同式は、臨床実習に臨むにあたり、昭和大学Student Pharmacistの白衣を授与して医療人を目指す者としての自覚を促し、心構えを新たにすることを目的に薬学部では平成22年より毎年実施している。

中村明弘薬学部長は告辞で、「皆さんはコロナ禍という社会が大きく変わる中で学生生活を過ごし、先輩たちが経験していないような環境の中で努力を積み重ね、今日の日を迎えられました。実習では、ベッドサイドという近い距離で患者さんの目線になり、至誠一貫の精神を忘れずに臨んでください。これから生涯にわたって続く、臨床での学びをスタートするという心構えを持って、一緒に取り組んでいきましょう」と述べた。

学生たちは真新しい白衣を身に付け、これから始まる臨床実習への決意を新たにしました。

臨床研修薬剤師による講話では「病院実習で向き合う患者さんはPBLや今までの実習とは異なり、日々刻々と状態が変化していきます。様々な資料を基にして、治療の評価、提案を行うことを求められることもあります。薬剤師だけでなく、医師や看護師な



1 白衣授与 2 代表者による昭和大学宣言

ど多職種との連携の難しさを感じることもあるかもしれません。ぜひ、様々なことにチャレンジし、たくさんの学びや経験をして、今後に活かしてください。皆さんは実習生ではありますが、患者さんやそのご家族にとっては、医療スタッフの1人に見えることでしょう。実習ではチーム医療の一員であることを忘れずに、ルールを守り適切な態度で臨んでください」とのメッセージが送られ、学生たちは熱心に耳を傾けていた。

これから卒業まで、学生は本学附属病院および薬局等における臨床実習で研鑽を重ねていく。

日本看護研究学会 奨励賞

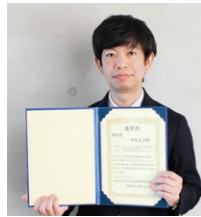
選定理由 『日本看護研究学会雑誌』に発表された論文の中で、独自性があり、将来に発展が期待される

受賞者 平塚克洋講師(保健医療学部看護学科)

掲載誌 日本看護研究学会雑誌, 44(1), 73-85, 2021.
/DOI 10.15065/jjsnr.20200805098

論文名 自己肝にて生存する思春期・青年期胆道閉鎖症患者が自ら療養生活を整えていくプロセス

著者 平塚克洋



平塚克洋講師

ISO「歯科用CAD/CAMシステム」分委会 国際議長に就任

名称 分化委員会「歯科用CAD/CAMシステム」の国際議長

概要 ISO/TC 106には下部組織として、SC1から9(5は欠番)まで8つのSub Committee(分化委員会)があり、SC 9は歯科用CAD/CAMシステムに関する規格策定を行う

就任者 堀田康弘准教授(歯学部歯科理工学講座)



第59回ISO/TC 106総会でのSC 9会議報告する堀田准教授

第149回日本薬理学会関東部会 学生優秀発表賞

演題名 「メカニカルストレス付与による化学療法誘発性末梢神経障害モデルマウスにおけるオキシトシン発現の解析」

受賞者 薬学部4年 渡辺佳愛子さん

研究配属先 薬学部基礎医療薬学講座薬理学部門

日程・場所 2023年10月14日・昭和大学 上條記念館



(左から) 木内祐二薬理科学研究センター長、渡辺佳愛子さん、野部浩司教授(薬学部基礎医療薬学講座薬理学部門)

日本呼吸器学会関東地方会 最優秀賞・優秀指導医賞ダブル受賞

演題名 「一次治療後に遺伝子パネル検査を施行し、RET融合遺伝子陽性が判明し分子標的薬を開始できた1例」

受賞者 最優秀賞/西村太一さん(臨床研修医2年目)、優秀指導医賞/眞鍋亮助教(内科学講座呼吸器アレルギー内科学部門)

日程・場所 2023年11月11日・秋葉原コンベンションホールおよびWEBのハイブリッド開催



(左から) 西村太一さん、眞鍋亮助教、相良博典教授、楠本社二部講師

2023.11.30 | うっ滞性乳腺炎罹患女性と健常者の母乳を比較・分析 「Pediatrics International」誌に論文掲載

医学部5年の伊藤瑞穂さん、水野克己教授(医学部小児科学講座)らの研究グループは、うっ滞性乳腺炎罹患女性の母乳は健常者母乳に比べて母乳中細菌叢の多様性が減少し、また、Rothia属菌の関連が示唆されることを報告しました。

この原著論文は、Pediatrics International誌に掲載されました。

論文名 Microbiota in human breast milk: Noninfectious mastitis versus without mastitis

掲載誌 / Pediatrics International
著者 / Ito, Mizuho; Tanaka, Miori; Date, Midori; Nagao, Saeko; Miura, Kumiko; Mizuno, Katsumi
DOI / 10.1111/ped.15677



(左から) 水野克己教授、伊藤瑞穂さん

2023.11.2/11.25/12.7 | 地域との交流や高大連携を今後も強化 品川区立小学校・特別協定校で 出張講義&体験授業

品川区立第二延山小学校および清水台小学校の第5学年の児童、本学の特別協定校である昭和女子大学附属昭和中学校・高等学校の生徒を対象に、各学部・看護専門学校の教育職員が出張講義・体験授業を実施した。

講義では、各回ともに、最初のうちは緊張しつつも、内容が進むにつれ、積極的な姿勢がみられ、最後まで熱心に取り組んでいた。体験授業ではシミュレータを使用した演習が行われた。

本学は地域社会への貢献を目指し、今後も積極的に近隣の小学校や地域の方々と様々な交流を図っていく。

開催日と担当教育職員は下記のとおり。

品川区立第二延山小学校・清水台小学校(児童向け)	
11月2日(休)	小児循環器・成人先天性センター/佐野俊二特任教授 保健医療学研究科/副島賢准教授、他
昭和女子大学附属昭和中学校・高等学校(生徒向け)	
12月7日(休)	医学部医学教育学講座/土屋静馬准教授 歯学部歯科矯正学講座/芳賀秀郷准教授 薬学部病院薬剤学講座/渡邊亜矢子講師 保健医療学部看護学科/松井真弓講師 保健医療学部リハビリテーション学科理学療法学専攻/三宅英司講師 保健医療学部リハビリテーション学科作業療法学専攻/佐藤範明講師
昭和女子大学附属昭和高等学校(生徒向け)	
11月25日(出)	医学部/高宮有介客員教授



1 品川区立第二延山小学校・清水台小学校での体験授業の様子 2 昭和女子大学附属昭和中学校・高等学校での講義の様子(芳賀秀郷准教授) 3 昭和女子大学附属昭和高等学校での講義の様子(高宮有介客員教授)

2023.11.9 | 「生命と性の健康教育」の活動が高評価 健やか親子21 内閣府特命担当大臣表彰

2023年11月9日、栃木県宇都宮市で開催された健やか親子21全国大会にて、上田邦枝教授(助産学専攻科)が内閣府特命担当大臣表彰を受賞した。

この表彰は、こども家庭庁が、成育過程にある者の心身の健やかな成育並びに妊産婦の健康の保持及び増進に寄与する取組を推進している個人・自治体・団体・企業を表彰するもの。

プレコンセプションケアの推進、不妊症や不育症に対する理解を促すための活動、若年妊婦・特定妊婦等への支援、妊産婦のメンタルヘルスにおける多職種連携、健康教育や食育、こどもや子育て家庭に寄り添った支援等の取り組みが対象となり、上田教授は、長



上田邦枝教授

年にわたる包括的性教育の「生命と性の健康教育」の活動が評価され、このたびの受賞となった。

2023.9.30~10.1

受賞・表彰 保健医療学部

日本腹膜透析医学会学術集会・総会で コメディカル賞優秀賞

田村由衣講師（保健医療学部看護学科）が第29回日本腹膜透析医学会学術集会・総会（9月30日～10月1日：TOC有明コンベンションホール）において、“Process of body image transformation in patients introduced to peritoneal dialysis”というテーマで発表し、コメディカル賞優秀賞を受賞した。

（左から）三村洋美認定看護師教育センター長、小松崎記子講師（保健医療学部看護学科）、田村由衣講師、多久和善子講師（認定看護師教育センター）



2023.12.6

受賞・表彰 医学部

重症薬疹患者の敗血症発症因子やステロイドの影響を解析 JDS Best Paper Award 2022

須長由真講師（医学部皮膚科学講座）が、皮膚科学研究の国際誌であるJournal of Dermatological ScienceのJDS Best Paper Award 2022を受賞した。同賞は、2022年にJournal of Dermatological Scienceに掲載された論文の中から独創的で優れた成果を上げた論文に対して授与される。



須長由真講師

論文名/Risk factors for sepsis and effects of pretreatment with systemic steroid therapy for underlying condition in SJS/TEN patients: Results of a nationwide cross-sectional survey in 489 Japanese patients

掲載誌/Journal of Dermatological Science Volume107, Issue 2

DOI/10.1016/j.jdermsci.2022.07.004

著者/Yuma Sunaga, Natsumi Hama, Hirota Ochiai, Akatsuki Kokaze, Eun Seon Lee, Hideaki Watanabe, Michiko Kurosawa, Hiroaki Azukizawa, Hideo Asada, Yuko Watanabe, Yukie Yamaguchi, Michiko Aihara, Yoshiko Mizukawa, Manabu Ohya, Riichiro Abe, Hideo Hashizume, Saeko Nakajima, Takashi Nomura, Kenji Kabashima, Mikiko Tohyama, Hayato Takahashi, Hiroki Mieno, Mayumi Ueta, Chie Sotozono, Hiroyuki Niihara, Eishin Morita, Hirohiko Sueki

2023.11.25~26

受賞・表彰 医学部

臍ヘルニアの圧迫療法による蜂窩織炎の早期乳児例を報告 日本小児感染症学会総会・学術集会以 poster 賞

吉田百合香助教（医学部小児科学講座小児内科学部門／江東豊洲病院こどもセンター）が、第55回日本小児感染症学会総会・学術集会（11月25日～26日：名古屋国際会議場）にて poster 賞を受賞した。同賞は、全 poster 演題を対象に選出された候補演題

13演題の中から、同学会理事・監事・評議員の投票によってさらなる選出を経た4演題に授与される。吉田助教は、演題名「臍ヘルニアの圧迫療法による臍部蜂窩織炎」が高く評価され、同賞に選定された。



ご感想・ご意見・ご提供のお願い

「SHOWA UNIVERSITY NEWS」= “SUN” では引き続き学内の情報についてご紹介をしています。本誌のご感想や、今後開催されるイベント・取り組みなどの情報について、ご意見・ご提供をお願いしております。ぜひお気軽にお寄せください。二次元コードからWEBフォームよりお聞かせください。今後とも購読の皆様により良い情報を提供していけるよう、努めてまいります。

ご回答いただいた内容につきましては、本誌制作の資料としてのみ利用させていただきます。



2023.11.2~5

受賞・表彰 医学部

腹腔鏡下肝切除におけるAIの有用性や展望を報告 JDDW 2023 KOBEで ポスター優秀演題賞

富岡幸大助教（医学部外科学講座消化器一般外科学部門／昭和大学病院 消化器・一般外科）がJDDW 2023 KOBE（第31回日本消化器関連学会週間：2023年11月2日～5日：神戸コンベンションセンター）において「視覚支援AIを用いた腹腔鏡下肝切除術のリアルタイムナビゲーションシステム構築とその展望」について発表し、ポスター優秀演題賞を受賞した。富岡助教は、腹腔鏡下肝切除における視覚支援AIシステムの有用性と現状、臨床応用へ向けた取り組みについて報告し、その内容が高く評価され同賞に選定された。



（左から）青木武士教授、富岡幸大助教

【富岡幸大助教のコメント】

本邦における肝切除における合併症発生率はここ数年で微増傾向にあります。合併症の原因の3割は外科医の認識に関わるとされ、特に触覚が欠如した腹腔鏡下肝臓手術においては肝断中の細かな静脈やグリソン鞘の見落としや解剖誤認が出血や胆汁漏などにつながります。今回、アナウト社のAIシステム（商品名：EUREKA）を用い、当科の青木武士教授、田代良彦講師とともに腹腔鏡下肝切除中の脈管構造物の自動認識AIモデルを新規構築しました。この技術により、細かな脈管の見落としや不用意な処理を回避するだけでなく、解剖学的肝切除におけるメルクマールとなる脈

管を自動認識することで外科医が頭で描いた理想的な手術の遂行の一助となり得ます。これまで当科で行ってきたICG蛍光イメージングの光学技術とAIテクノロジーとの融合や独創的なアイデアを加味することで、外科医が想定した理想的な手術を正確に再現できるリアルタイムナビゲーションへの昇華を目指して研究開発を推進して参ります。

本研究を支えていただいている医局員の皆様、アナウト株式会社の皆様にはこの場を借り、心から感謝申し上げます。

2023.12.14~16

受賞・表彰 薬学部

治験のデジタル化「リモートSDV」に関する研究を発表 日本臨床薬理学会学術総会で優秀演題賞

山崎太義講師（薬学部臨床薬学講座臨床研究開発学部門）が第44回日本臨床薬理学会学術総会（2023年12月14日～16日：神戸国際会議場・神戸国際展示場）で優秀演題賞を受賞した。日本臨床薬理学会は、1970年に前身の臨床薬理研究会として発足、1980年に現在の学会に発展して設立された。臨床薬理学は、科学的な「合理的薬物治療」を志向する学問領域。同学会では薬物治療の有効性と安全性を最大限に高め、個々の患者さんに最良の治療（治療の個別化）を提供できることを目指している。山崎講師は「リモートSDVの導入状況と今後に向けた課題～治療効率化を目指して～」の poster 発表が高く評価され、同賞に選定された。

負担への影響について多くの人に知ってもらえる良い機会となりました。なお、本調査は本学薬学部の学生とともに実施したものです。一緒に研究活動を行ってきた学生とも受賞の喜びを共有したいと思います。

また、昨年度の滝伊織助教（薬学部臨床薬学講座臨床研究開発学部門）の受賞に引き続き、本年も同賞を受賞することができ、日頃よりご指導、ご支援いただいている肥田典子教授（同）をはじめ臨床薬理研究所の皆様にご心より御礼申し上げます。今後も治験業務の現場視点から問題解決していけるよう、研究に精進してまいります。

【山崎太義講師のコメント】

この度は、大変栄誉ある賞を賜り、光栄に存じます。当部門では臨床薬理研究所とともに治験業務を通じた教育・研究活動を行っております。この度、治験のデジタル化やCOVID-19の影響により注目されている「リモートSDV」に関する研究結果を発表いたしました。リモートSDVが治験の現場に与える効率化や業務

※SDV (Source Document Verification) 治験を評価する際に、医療機関のカルテなどの記録を直接閲覧して照合し、報告や治験の記録が信頼性のあるものかどうかを判断するもの。



山崎太義講師

全国大学史資料協議会 東日本部会研究会に33名が参加

12月19日、昭和大学上條記念ミュージアムにて全国大学史資料協議会主催の「第135回全国大学史資料協議会東日本部会研究会」が開催され、33名が参加した。

本会は、大学の歴史は個別大学史の枠にとどまるのではなく、他大学や社会との関連を視野に入れて編纂されるべきであり、大学に蓄積された資料は、大学文書館や大学資料館といった常設機関で整理・保存され、広く社会に公開・利用されるべきであるという考えの下に設立された。

研究会では小口江美子上條記念ミュージアム館長がミュージアム設立の経緯および展示活動、収蔵設備やその方法についての講演を行った。2019年に上條記念ミュージアムが開館する際の計画・施工についても紹介され、参加者は熱心に聞き入っていた。

講演後に、ミュージアム館内の見学を実施した。現在開催中の企画展『昭和の医療機器』の展示では、情報収集から収蔵までの経緯について説明があった。参加者からは「史料の収蔵のみならず、医学・医療の専門的知識を要する大変な作業だと思います」など感銘を受ける意見も聞かれた。



1 ミュージアム館内の見学：展示室Ⅲ 2 ミュージアム館内の見学：企画展示室
3 ミュージアム館内の見学：展示室Ⅰ

歯科衛生士の指導が アスリートの口腔状況に及ぼす効果を分析 日本スポーツ歯科医学会総会・ 学術大会で論文奨励賞

加藤(旧姓：杉本) 承子歯科衛生士(藤が丘リハビリテーション病院)の原著論文が、第34回日本スポーツ歯科医学会総会・学術大会(11月18日~19日：福岡歯科大学50周年記念講堂)において一般社団法人日本スポーツ歯科医学会2022年度論文奨励賞(山八歯材工業賞)を受賞した。同賞は、スポーツ歯科医学の進歩とスポーツ歯科医学会の発展に貢献寄与する優れた業績を発表した者へ授与されるもの。



加藤承子さん

掲載誌 スポーツ歯学26(2)：13-18, 2022

論文名 デンタルチェック時の歯科衛生士の指導はラグビー選手の口腔内状況に変化をもたらすか？

著者 杉本承子, 船登雅彦, 安部聡子, 芳賀秀郷, 西中直也, 三邊武幸

書誌ID (NDL BibID) : 032330070

【加藤承子さんのコメント】

このような賞を受賞でき大変うれしく思います。アスリートにとって口腔領域のトラブルは競技に支障が出る可能性が高く、口腔内の環境がスポーツのパフォーマンスに影響すると注意喚起されてい

ます。本研究においては、スポーツ運動科学研究所におけるスポーツメディカルチェックに歯科衛生士が関わることで、アスリートの口腔内状況に影響があったかを調査し、継続的・効率的な介入が必要であることが示唆されました。今後も認定スポーツデンタルハイジニストの立場からアスリート、スポーツ愛好家の競技生活をサポートできたらと思います。本論文投稿にあたり、ご指導賜りました船登雅彦教授(スポーツ運動科学研究所)はじめ、共同著者の先生方ならびにご協力いただきました歯科衛生士の皆さまに厚く御礼申し上げます。

※認定スポーツデンタルハイジニスト(SDH) …競技者やスポーツ愛好家の口腔衛生管理指導のほか、マウスガードやフェイスガードのカウンセリングを行うことができる歯科衛生士に対して、日本スポーツ歯科医学会が認定を行う専門資格のこと。

川崎市COLORS, FUTURE! SUMMITに 制作委員会の一員として昭和大学が参画

11月17日・18日、川崎市内の複数会場にて「COLORS, FUTURE! SUMMIT 2023 KAWASAKI」が開催された。

COLORS, FUTURE! SUMMITは川崎市の市制100周年を記念して実施している記念事業「COLORS, FUTURE! ACTIONS」(一人ひとりの市民、関係する企業、団体、川崎市と共に未来のかわさを考え、創っていくための、活動、プラットフォーム)のショーケースとして実施されたイベントで、本学は制作委員会の一員として参画した。

17日、18日の両日はラゾーナ川崎のルーファ広場において、医療を身近に感じ、関心をもってもらうことを目的に「手指消毒トレーニング」「白衣着衣体験」を実施した。

また、18日には川崎市新庁舎において本学のスポーツ運動科学研究所三邊武幸所長、西中直也教授、本学と包括連携協定を締結している日本体育大学 前学長でロサンゼルスオリンピック男子体操個人総合金メダリストの具志堅幸司教授をお迎えして、「“超” 少子高齢化社会における健康づくりとは——オリンピック金メダリストと考える運動の必要性——」と題したトークセッションを行った。

多くの川崎市民をはじめとした方々に参加していただき、医療



1 カンファレンスの様子
@川崎市役所新庁舎
2 フェスティバル(手指消毒トレーニング)@ルーファ広場



に関心を持ってもらうとともに、健康について振り返っていただく機会を提供することができた。

全日本歯科学学生総合体育大会で優勝した バレーボール部が受賞 武重優秀クラブ賞表彰式

11月9日、上條記念館にて令和5年度武重優秀クラブ賞・優秀クラブ賞表彰式を挙行政した。

同賞は学生の課外活動において優秀な成績を収めたクラブを表彰するもの。

新型コロナウイルスの影響により令和元年以降、課外活動が縮小されていたため、4年ぶりの表彰式となった。

最優秀賞となる武重優秀クラブ賞は、第55回全日本歯科学学生総合体育大会にて男子の部が優勝し、田中豪さん(歯学部3年)が大会MVPを獲得するなどの活躍を見せたバレーボール部が受賞した。

各クラブ賞の受賞団体は以下のとおり。

■武重優秀クラブ賞

バレーボール部

■優秀クラブ賞

学長賞…馬術部

学生部長賞…Medical All Stars Jazz Orchestra部

武重優秀クラブ個人賞…水泳部 藤井康太さん(歯学部6年)

武重優秀クラブ個人賞…陸上競技部 宮定太一さん(歯学部3年)



1 表彰式の様子 2 挨拶：久光正学長 3 代表者による昭和大学宣言 4 表彰の様子 5 表彰式：応援指導部による演奏



関東大学アイスホッケーリーグ 3部優勝&2部昇格

さらに東日本医科学生総合体育大会3位に

■2023年度関東大学アイスホッケーリーグ2部昇格戦

2023年度関東大学アイスホッケーリーグ2部昇格戦（ダイドー
ドリンコアイスアリーナ：西東京市）において、昭和大学は、12
月17日の東京理科大学に勝利し、3部優勝を勝ち取った後、12
月23日には学習院大学との入替戦に勝利し、来年度より2部リ
ーグに昇格が決定した。

会場が満席となるほどOBやご家族の方々が応援にかけつけた。
新体制となる来年は、部員一丸となって2部優勝を目指す。

■第66回東日本医科学生総合体育大会アイスホッケー競技

12月24日~30日、第66回東日本医科学生総合体育大会（小
瀬アイスアリーナ：山梨県甲府市）において、昭和大学は出場全
14チーム内における入替戦を経て、最上位グループに進出し3
位に入賞した。

また、医学部4年 松山貴彦さんが得点王、医学部3年 磯部晃
さんがベスト6を受賞した。

※DATABASEに2023年度関東大学アイスホッケーリーグ2部昇格戦：嘉瀬優一さんのコメント
を掲載しています

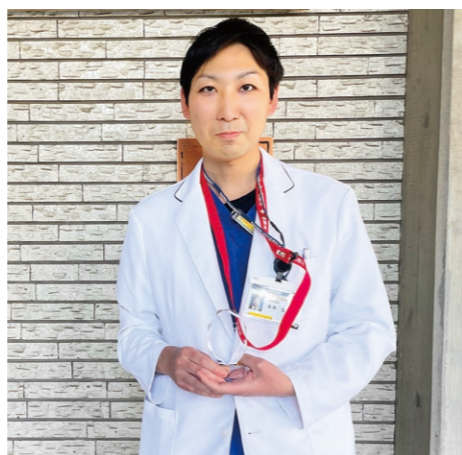


1 2部昇格戦：昇格後の祝福（試合終了直後氷上にて） 2 東日本医科学生総合体育大会：Aグル
ープ3位記念写真 3 東日本医科学生総合体育大会：医学部4年 峯岸直哉さんのシュートシーン
4 2部昇格戦：記念写真

リンパ管イメージングのMRI撮像技術で受賞 Signa甲子園2023で銅賞

本寺哲一講師（保健医療学部保健医療学教育学）が、第18回Signa甲子園（2023
年12月9日：TKPガーデンシティPREMIUM田町およびWEBハイブリッド開催）で、
銅賞を受賞した。

Signa甲子園は、GEヘルスケア社のMRI装置を最大限に活用し、検査技術の創意
工夫をユーザー間で競う画像コンテストの大会。同社は、各都道府県にMRIのユー
ザー会（UM）を設置している。各UMから選出された代表者1名が全国大会に出場で
きる形式で、今回は全国UM代表者から25題のエントリーがあり、予選会により8題
が本選考に出場した。その本選で、本寺講師は『～リンパ管イメージング～「Non-
Contrast MR Lymphangiography（NCMRL）検査」』のMRI撮像技術が評価さ
れ、同賞に選定された。



本寺哲一講師

本学初のベンチャー企業 旗ヶ岡ネイチャー研究所設立

同社取締役がビジネス創造コンテストで
ダブル受賞の快挙も

■株式会社旗ヶ岡ネイチャー研究所設立の記念講演および記念 パーティーを開催

2月15日、株式会社旗ヶ岡ネイチャー研究所設立の記念講演
および記念パーティーを昭和大学上條記念館において開催した。

株式会社旗ヶ岡ネイチャー研究所（本社：札幌市中央区北4条
西4丁目1-7、社長：柴田浩樹）は、昭和大学で2年半の事業化
プロジェクトを経て設立した昭和大学第一号のベンチャー企業で
ある。

会場には約100名の方の来場があり、大盛況の会となった。

記念講演は、塚田愛講師（株式会社旗ヶ岡ネイチャー研究所取
締役/昭和大学統括研究推進センター創造研究支援部門）が「会
社設立に至るまでとこれから～ワイン加工残渣からできたSDGs
素材と健康寄与～」と題し、学内プロジェクトからの起業となった
ベンチャー設立経緯や開発したオリジナル原料と健康的な高齢者
を下支えするサプリメントの開発、販売実施までの過程を話され
た。

続いて行われた記念パーティーでは、久光正学長からの挨拶、
柴田浩樹社長から挨拶と社員の紹介があった後、中村明弘財務
担当理事による乾杯が行われた。

そして、研究所の紹介ビデオが上映され、参加者からはこれか
らの研究所の発展に期待を寄せる声が聞かれた。

最後に木内祐二副学長から挨拶があり、閉会となった。

■塚田愛講師が第14回ビジネス創造コンテストにおいて「奨励賞」 「よい仕事おこし賞（副賞 城南信用金庫賞）」をダブル受賞

塚田愛講師（統括研究推進センター）が、第14回ビジネス創
造コンテスト（2月2日：大崎プライトコア）において、224社の
応募の中から10社のファイナリストによるプレゼンテーションを経
て、「奨励賞」「よい仕事おこし賞（副賞 城南信用金庫賞）」のダ
ブル受賞を果たした。塚田講師は「ワイン加工残渣を活用したサ
プリメント・化粧品等と新しい医療」という演題名で発表し、ワ
イン加工時の産業廃棄物に着目したオリジナル素材を活用した新
たなサプリメントや化粧品等の商品展開を軸に、地域創生への可
能性を示したことが高く評価され、同賞に選定された。



1 記念講演：会場の様子 2 記念講演：塚田愛講師 3 記念パーティー
4 記念パーティー：紹介ビデオの上映 5 第14回ビジネス創造コンテスト：
奨励賞の受賞 6 第14回ビジネス創造コンテスト：よい仕事おこし賞の受賞

令和6年度入学試験

一般選抜入試（I期）、 大学入学共通テスト利用入試結果



令和6年度一般選抜入試（I期）が、2月1日（歯学部・薬学部・保健医療学部）、2日（医学部一次試験）の両日、横浜・大阪・福岡の3試験場で行われた。医学部二次試験は、2月10日、11日の両日、旗の台キャンパスで行われた。大学入学共通テスト利用入試が、2月1日（面接試験）横浜・大阪・福岡で行われた。詳細は表のとおり。

一般選抜入試（I期） 令和6年度結果

令和6年2月14日時点

学部・学科・専攻	募集人員	試験日	志願者数	合格者数
医学部	83		1,985	207
医学部地域枠	新潟県	一次 令和6年2月2日(金)	126	7
	静岡県	二次 令和6年2月10日(土)または11日(日)	76	8
	茨城県	※医学部地域枠選抜入試の二次は2月10日(土)のみ	40	4
	山梨県		6	0
薬学部(医学部併願)	4		69	15
歯学部	42		224	87
薬学部	95		226	155
看護学科	38		196	110
保健医療学部	リハビリテーション学科 理学療法専攻	令和6年2月1日(休)	50	36
	リハビリテーション学科 作業療法専攻		9	7
	リハビリテーション学科 作業療法専攻 (第二希望併願)	若干名	4	4

大学入学共通テスト利用入試 令和6年度結果

令和6年2月14日時点

学部・学科・専攻	募集人員	試験日	志願者数	合格者数
歯学部	5		101	30
薬学部	5		90	56
看護学科	7	大学入学共通テスト 令和6年1月13日(土)・14日(日)	121	71
保健医療学部	リハビリテーション学科 理学療法専攻	面接試験 令和6年2月1日(休)	37	19
	リハビリテーション学科 作業療法専攻		13	11

令和6年度医学部附属 看護専門学校入学試験結果

医学部附属看護専門学校令和6年度一般選抜入試I期を実施し、合格者が決定した。詳細は表のとおり。

一般選抜入試I期（試験日：2024年1月8日）

年度	2024年度	2023年度
募集人員	65	70
志願者数	男	8
	女	117
	計	125
合格者数	男	4
	女	65
	計	69

冬季スポーツ大会競技結果

大会名	競技種目	競技結果(団体・個人・総合)
第55回全日本医歯薬学生馬術新人戦		団体優勝
		個人優勝 岩崎賢志朗(歯学部2年)
		個人3位 堀響希(歯学部2年)
第75回サムス准将杯争奪戦	馬術	団体準優勝
令和5年度東京農工大学学長杯馬術大会	足歩部班競技	優秀選手賞 寺内涼(薬学部3年)
冬季医療戦	水泳	総合2位
		男子総合優勝
第22回オール関東医科学生スキー選手権大会	男子大回転	第1位 康野瑛嗣(医学部2年)
	男子回転	第4位 山崎健斗(医学部4年)
		第5位 岡安楽人(医学部3年)
		第6位 小槻泰聖(医学部2年)
	女子大回転	第6位 山下舞(医学部4年)
2023年度 関東大学アイスホッケーリーグ戦		3部優勝(2部昇格)
		最優秀選手賞・最多ポイント賞 嘉瀬優一郎(保健医療学部4年)
第66回東日本医科学生総合体育大会	アイスホッケー	総合第3位
		得点王 松山貴彦(医学部4年)
第46回全国医歯薬獣柔道大会	男子団体戦	予選リーグ1位通過、決勝トーナメント第3位
	男子個人戦	第3位 井手佑一郎(薬学部4年)
		第3位 柏木哲生(医学部3位)



関東大学アイスホッケーリーグ戦で最優秀選手賞・最多ポイント賞を受賞 保健医療学部4年 嘉瀬優一郎さんのコメント

私たちは今回、関東大学アイスホッケーリーグ戦3部優勝、そして2部昇格という結果を残すことができました。

3部優勝を成し遂げた1週間後に試合が行われることとなり、チーム内でも緊迫した雰囲気が続いていました。練習ではコーチの指導の下怪我無く行い、試合に備えました。

部の雰囲気が最高潮のまま迎えた昇格戦。1ピリオド、2ピリオドまでは拮抗した試合が続き、試合終了10分前までは1-2と相手にリードを許す展開となっていました。しかし、控室でコーチによる熱い言葉を頂き、部員全員気合を入れなおしました。結果、3ピリオドで4点を取り5-2で勝利することができました。

この結果は、毎試合遠方から足を運んでくださったOB、OGの先生方や家族、応援してくださった全ての方々、プレイヤー、マネージャー含めて一丸となって戦った部員全員の力があってこそのもので



す。関わっていただいた全ての皆様に深く感謝申し上げます。
今後も全力で練習に励み、昭和大学アイスホッケー部の誇りと伝統を引き継いでいけるよう精進して参ります。

学内会議報告



就任のお知らせ (12月12日 理事会承認)

薬学部学生部長



岸本 桂子

薬学部社会健康薬学講座
社会薬学部門担当 教授
任期：令和6年4月1日
～令和8年3月31日

富士吉田教育部学生部長



山本 雅人

富士吉田教育部 教授(員外)
任期：令和6年4月1日
～令和8年3月31日

医学部学生部長(再任)

砂川 正隆

医学部生理学講座生体制御学部門担当 教授
任期：令和6年4月1日～令和8年3月31日

歯学部学生部長(再任)

野中 直子

歯学部口腔解剖学講座担当 教授
任期：令和6年4月1日～令和8年3月31日

保健医療学部学生部長(再任)

加賀谷 善教

保健医療学部リハビリテーション学科
理学療法専攻 教授
任期：令和6年4月1日～令和8年3月31日

就任のお知らせ (1月9日 理事会承認)

特任教授



真鍋 厚史

現：歯学部歯科保存学講座
美容歯科学部門担当 教授
[勤務地：昭和大学歯科病院美容歯科]
任期：令和6年4月1日
～令和7年3月31日
理由：人間総合科学大学に出向のため

教授(員外)

[勤務地：医学英語教育センター]



野田 千糸里

客員教授(医学英語教育センター)
[勤務地：旗の台校舎医学英語教育センター]
任命日：令和6年4月1日

薬学部臨床薬学講座(臨床研究開発学部門)担当 教授(員外)



肥田 典子

薬学部臨床薬学講座(臨床研究
開発学部門)担当 准教授
任命日：令和6年1月9日

富士吉田教育部 教授(員外)



佐野 佳弘

富士吉田教育部 准教授
任命日：令和6年1月9日

昭和大学統括教育推進室長



久光 正

現：学長
任期：令和6年4月1日
～令和7年3月31日

図書館長



長谷川 篤司

歯学部歯科保存学講座(総合診
療歯科学部門)担当 教授
現：副館長
任期：令和6年4月1日
～令和8年3月31日

昭和大学産学官連携室長



三邊 武彦

現：昭和大学統括研究推進センター長
任期：令和6年4月1日
～令和7年3月31日

特任教授 継続

岡本 健一郎

任期：令和6年4月1日～令和7年3月31日

昭和大学助産学専攻科長(再任)

下平 和久

現：昭和大学助産学専攻科長
任期：令和6年4月1日～令和9年3月31日

昭和大学先端がん治療研究所長(再任)

鶴谷 純司

現：昭和大学先端がん治療研究所長
任期：令和6年4月1日～令和9年3月31日

昭和大学スポーツ運動科学研究所長(再任)

三邊 武幸

特任教授
現：昭和大学スポーツ運動科学研究所長
任期：令和6年4月1日～令和7年3月31日
(特任教授の任期に合わせるため)

総合情報管理センター長(再任)

中村 明央

現：総合情報管理センター長
任期：令和6年4月1日～令和8年3月31日

昭和大学IR室長(再任)

下司 映一

特任教授
現：昭和大学IR室長
任期：令和6年4月1日～令和7年3月31日

昭和大学リカレントカレッジプリンシパル(再任)

小川 良雄

現：昭和大学リカレントカレッジプリンシパル
任期：令和6年4月1日～令和8年3月31日

頭頸部腫瘍センター長(再任)

嶋根 俊和

現：昭和大学頭頸部腫瘍センター長
任期：令和6年4月1日～令和8年3月31日

学校法人昭和大学内部監査室長(再任)

下司 映一

特任教授
現：学校法人昭和大学内部監査室長
任期：令和6年4月1日～令和7年3月31日

昭和大学経営戦略企画室長(再任)

的場 匡亮

現：昭和大学経営戦略企画室長
任期：令和6年4月1日～令和8年3月31日

理事会関係

◆昭和大学メディカルデザイン研究所設置

【設置目的】医療分野におけるデザインの研究を通して、患者や医療従事者のQOLの向上に寄与するため。

【設置日】令和6年4月1日

【設置場所】長津田校舎内

【研究所長予定者】安次富 隆 (多摩美術大学 教授)

※研究所長予定者の雇用については、クロスアポイントメント制度を利用する。

◆昭和大学大学院保健医療学研究科博士前期課程

アスレティックトレーニング学コース開設

【設置趣旨】スポーツをする人の安全と安心を確保したうえで、パフォーマンスの回復や向上を支援できる人材を養成する。

【開設時期】令和6年4月1日

【コース名称】課程：博士前期課程 コース：専門コース
分野：アスレティックトレーニング
領域：アスレティックトレーニング学

◆高等学校との包括連携協定の締結について

現在、大学間で締結している包括連携協定について、今後は高等学校とも進めていくことが報告された。

【包括連携協定高等学校】学校法人世田谷学園 ※協定締結予定

◆「クラウドファンディング取扱規程」制定

【制定趣旨】昭和大学におけるクラウドファンディングの実施に関し、必要な事項を定めるため。

【施行日】令和6年1月1日

◆特許権に係る実施補償金支給

【発明の名称】抗ウイルス活性を有するヌクレオシド誘導体の開発

【実施料収入金額】5,942,589円

【実施補償金(分配割合)】

大学(60%)：3,565,554円 発明人(40%)：2,377,035円

◆昭和大学eICUセンター設置

昭和大学では2018年4月に集中治療における遠隔医療(eICU)をアジアで初めて導入し、昭和大学病院と昭和大学江東豊洲病院で運用を開始した。eICUは、複数のICUをネットワークで接続し、その情報を現場から離れた支援センターにいる集中治療専門医が閲覧し、現場ICUのスタッフや患者と双方向通信でつなぐことで支援するもの。2023年度からは昭和大学横浜市北部病院と昭和大学藤が丘病院のICUとも接続し、計98床で運用している。このたび昭和大学におけるeICUに関する教育・研究・診療の充実を目的として、昭和大学eICUセンターを設置することとした。

【設置趣旨】集中治療領域における臨床、教育および研究を充実させ、本邦における遠隔集中治療の普及に資する。

【名称】昭和大学eICUセンター

【設置場所】昭和大学病院中央診療部門

【センター長】昭和大学病院集中治療科 教授 小谷 透

【開設時期】令和6年4月1日

学務関係

◆学生医療費扶助制度について

本学の学生が附属病院を受診した際に医療費の自己負担分を大学が扶助する学生医療費扶助制度について、保険制度により払い戻される医療費により、学生が自己負担分以上の医療費を受け取ってしまう場合がある。対応策として、25,000円を超過した医療費については、外来診療・入院診療ともに健康保険の高額療養費制度および付加給付制度の払い戻しが全て終了した時点で自己負担額を扶助することとした。

i Information

詳細・更新情報は各部署へお問い合わせください。

リカレントカレッジ事務局

令和6年度 昭和大学リカレントカレッジ 春期プログラム受講生募集中

令和6年度春期プログラム受講生を募集しています。今期は新規開講講座も増え、より一層多彩なプログラムを取り揃えています。今回は5月以降に開講する講座をご紹介します。資料請求・講座申込はリカレントカレッジホームページをご覧ください。

【5月以降開講】申し込み締切：初回開講日の前月20日

プログラム名(5月以降開講)	講師(敬称略)
あなたのプレゼンが、グングン上手くなる！ ～素敵なおプレゼンテーションで、人の心を動かそう～	泉 美貴
自分らしい生き方を考える ～豊かな生活をデザインする～	大滝 周
誰でもわかる法学入門 ～法学の基礎を知れば人生怖いものなし～	城 祐一郎
癒しを生活に取り入れてみませんか？ ～効果のある手軽なケアを 看護・介護の視点から学びましょう～	田中 晶子
アニメが繋ぐ世界～アニメ聖地巡礼と地域振興～	刑部 慶太郎
コミュニケーションスキルを身に付けよう	後藤 理英子
今から100歳まで動ける身体作りを!! ～人生100年時代を生き抜く力～	石田 良恵
発達障害とは何か ～天才、ギフトドから不登校、引きこもりまで～	岩波 明
レジリエンス～折れない心のつくりかた～	後藤 理英子
アクティブラーニングで学ぶ医療現場のDX	中村 明央
東京の庭園の魅力～歴史と美を愉しむ～	鈴木 誠
知って得する！靴と足の健康	内田 俊彦
60代になったら始めよう！人生が豊かになる！ 姿勢・歩き方講座	岡山 知世
生活習慣を見直して健康寿命を延ばそう！	小風 暁
あなたも陥る身近な犯罪	城 祐一郎
楽しく高める自然治癒力～セルフケアで免疫力アップ～	佐々木 晶子

※定員に達し次第、受付を終了いたします。

リカレントカレッジでは講師を募集しています。同窓生も講師として活躍中です。

お問い合わせ 昭和大学リカレントカレッジ事務局

電話：03-3784-8143

メール：recurrent@ofc.showa-u.ac.jp



学事部学生課

旗の台キャンパス10号館の 窓口時間変更について

下記の日時より学生課の窓口の時間が変更となります。(火曜日と金曜日を除く)

【日時】 令和5年12月25日より

【場所】 旗の台キャンパス10号館1号棟

学生課(学生係・キャリア支援室)

【変更点】 窓口時間の変更 [変更前] [変更後]

8:30～18:00 → 8:30～17:00

※火曜日と金曜日は18:00まで

よろしくお願いいたします。

お問い合わせ 学事部学生課

電話：03-3784-8024

メール：hatagaku@ofc.showa-u.ac.jp

統括研究推進センター

各種研究費における 「電子帳簿等保存法」の取扱いについて

研究者・研究室 各位

国税庁「電子帳簿等保存制度」の改正に伴い、R6年1月1日以降にメールなどで受け取った電子取引データ(発注書・契約書・見積書・請求書・領収書等)については、電子データのまま保存することが義務付けられました。つきましては、研究者の方々には以下についてお願いいたし、ご理解ご協力の程お願い申し上げます。

①R6年1月1日以降にメールで受け取った電子取引データについては、SURAC電子データ専用アドレス(surac-d@ofc.showa-u.ac.jp)に電子取引データの送付又はメールの転送をお願い致します。

その際、メールの件名は使用する研究費名(文科科研費、AMED、大学研究費、受託研究費等)「研究費名」を記載してお送りください。また併せて、従来通り印刷したものもご提出ください。(Amazon等のネット注文サイトにおいて、請求書(請求書兼領収書や適格請求書など)等のPDFを発注者自身がダウンロードする場合においても、従来通り印刷した用紙を提出いただくとともに、ダウンロードした電子データ(PDF)を専用アドレス(surac-d@ofc.showa-u.ac.jp)に送付してください。)

②①学内研究費について

支払申請書(総括表)をSURACまたは各附属施設管理課・事務

課に提出する場合、支払申請書(総括表)の(左側)項目番号に“○”で囲ってください。

②②競争的資金研究費(科研費・厚労・AMED・民間助成等)について

支払申請書をSURACに提出する際、添付する証憑書類の中に電子データを原本として受け取ったものがある場合について、当該書類の右上に○印を記載して下さい。

(○印があるものは電子データであると認識をさせていただきます。)

お問い合わせ 統括研究推進センター事務局 研究支援課

電話：03-3784-8019

FAX：03-3784-9277

メール：zaimu-n@ofc.showa-u.ac.jp

スポーツ運動科学研究所

第15回学術研究発表会開催のお知らせ

昭和大学スポーツ運動科学研究所「第15回学術研究発表会」を以下の日程で開催いたします。

【日時】 令和6年6月8日(土) 14時00分～17時00分

【場所】 昭和大学病院入院棟地下1階 臨床講堂

【演題募集(予定)】 令和6年4月8日(月)～5月13日(月)

お問い合わせ 昭和大学スポーツ運動科学研究所

〒227-8518

神奈川県横浜市青葉区藤が丘2丁目1番1号

電話：045-978-6302

メール：rises@ofc.showa-u.ac.jp



上條記念ミュージアム

「昭和の医療機器」展 開催中!

上條記念ミュージアムでは、第5回企画展「昭和の医療機器」を開催しています。昭和大学の創立以来、教育や臨床の現場で使用された医療機器の展示を通じて窺える本学の歴史を、当時の写真とともに紹介しています。

【開館】 火曜日・金曜日

13:00～15:00(予約制)

皆さまのご来館を心よりお待ちしております。

お問い合わせ 昭和大学上條記念ミュージアム

電話：03-3784-8031

メール：museum@ofc.showa-u.ac.jp



昭友商事株式会社

昭和大学の皆さまへ
便利なサービス・商品を提供します!

昭和大学富士吉田の天然水 イベント業務委託

昭和大学オリジナルワイン ローソン&タリーズ

QUOカード・VJAギフトカードなど その他色々!

お気軽にお問い合わせください! ☎ 3784-8280

なんでもご相談下さい。

医学堂書店

有限会社 医学堂書店

〒142-0064 東京都品川区旗の台1-11-9

TEL 03-3783-9774 FAX 03-3783-3156

Email igakudo@peridot.bforth.com

総務部

昭和大学サポート寄付制度にご協力いただいた方

【創立100周年に向けてへの寄付】

父母／池田 裕保 様

同窓／秋山 多美子 様（歯学部・11回生）、磯山 恵一 様（医学部・46回生）、大友 克之 様（医学部・59回生）、北野 仁 様（医学部・45回生）、北野 学 様（医学部・80回生）、小出 薫 様（薬学部・3回生）、眞田 妙子 様（医学部・41回生）、高須 克彌 様（医学部・37回生）、安原 一 様（医学部・38回生）、渡邊 豪紀 様（医学部・68回生）

職員（50音順）／池田 尚人 様、大石 竜 様、片桐 江美子 様、加藤 京太郎 様、小出 良平 様、佐藤 駿太 様、眞田 裕 様、菅 秀彰 様、高瀬 正 様、鶴谷 純司 様、連川 潔 様、長濱 諒 様、尾頭 希代子 様、藤澤 龍一 様、増田 滋 様、増田 陸雄 様、松木 恵里 様、溝淵 正英 様、村岡 真輔 様、由良 明彦 様、横山 登 様、吉田 真也 様、依田 恵美子 様

一般／澤田 実香 様、戸田建設株式会社東京支店 様、林耳鼻咽喉科医院 様、政本 多美子 様

【上條旗ヶ岡賞基金への寄付】

同窓／新井 大輔 様（医学部・69回生）

【教育研究協力資金への寄付】

父母／加藤 智明 様

同窓／矢野 一郎 様（医学部・44回生）

【歯学部への寄付】

父母／池田 裕保 様

【薬学部への寄付】

父母／鈴木 豊一 様

【昭和大学横浜市北部病院への寄付】

職員／大塚 尚治 様

一般／匿名 様

【各クラブ・学生会への寄付】

同窓／安齊 尚子 様（医学部・57回生）、渡邊 豪紀 様（医学部・68回生）

職員／橋本 みゆき 様、長谷川 毅 様、龍 家主 様

※収納期間：12月1日～1月31日

※本学広報媒体への掲載に同意していただいた方のみといたします

創立100周年記念事業募金
ご支援のお願い

本学は令和10年（2028年）に創立100周年を迎えます。この大きな節目を迎えるにあたり、教育・研究・診療体制の充実や更なる発展のため、創立100周年記念事業を策定いたしました。

経済情勢の厳しい折ではありますが、本学における重要な役割を担う記念事業の実現へ向け、新時代への道のりを皆様と共に歩みたいと切に願っております。

皆様には本学の取組みに対して、ご理解・ご賛同いただき、ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

お問い合わせ 総務部企画課 企画サポート係

メール：kikaku@ofc.showa-u.ac.jp

電話：03-3784-8387

FAX：03-3784-8012



今号の表紙写真

表紙写真は12月22日に行われた富士吉田教育部の退寮式から。お世話になった寮監へ感謝の言葉と記念品の花を贈りました。寮生と寮監が抱き合って別れを惜しむ心温まる場面も。一年間共に過ごした仲間とともに、キャンパスでの学びやたくさんさんの経験に思いを馳せていました。

あつという間にまた新入生が入寮となります。実り多き学舎として、富士山の麓のキャンパスが学生の皆さんをお迎えます。



SHOWA
UNIVERSITY
NEWS vol. 9

Feb. - Mar. 2024
昭和大学新聞 通巻第618号
令和6年3月31日発行
年6回発行



昭和大学 (03) 3784-8000
〒142-8555 東京都品川区旗の台1-5-8

【本誌について】

発行人 小口 勝司

編集 総務課 大学広報係
(03) 3784-8059
press@ofc.showa-u.ac.jp

ご意見やご感想、各種情報をお待ちしています。

制作・印刷 株式会社ダイヤモンド・グラフィック社

配送停止
住所変更

の連絡は、
ぜひお願い
いたします。

【各種募金・寄付について】

企画課 (03) 3784-8387

【学事について】

学務課 (03) 3784-8022 (旗の台)
(0555) 22-4403 (富士吉田)
(045) 985-6503 (横浜)

大学院課 (03) 3784-8793

入学支援課 (03) 3784-8026

! 個人情報の取扱いにご注意ください

昭和大学新聞には、学生・職員および学外関係者の氏名や所属等を掲載している場合があります。掲載に際しては、学校法人昭和大学が個人情報を広報活動に利用することについて説明し、同意していただいております。原則として、その他の目的に個人情報を利用することはできませんので、取扱いにはご注意ください。